

令和5年7月19日

御成門小学校、御成門中学校  
保護者の皆さま

港区立御成門中学校  
校長 佐藤 太  
港区立御成門小学校  
校長 阿部 俊幸  
港区教育委員会事務局学校教育部  
学務課長 鈴木 健

### 御成門小・中学校の小中一貫教育校への移行検討について

日頃より港区の教育行政へ、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、港区教育委員会では、御成門小・中学校のこれまでの連携・協力を土台として学校のさらなる魅力向上を図り、地域から親しまれ、子どもたちが誇りに思える学校づくりを推進するため、教育の質の向上と子どもたちの健やかな成長につなげることを目的に、両校を小中一貫教育校へ移行することを検討しています。

これまで、保護者や地域の代表者、学校長、教育委員会事務局職員で構成する検討委員会を設置してご意見を伺っており、今後、教育委員会において正式決定に向けた手続きを進め、令和6年4月からの移行を目指しております。

在校生及び保護者の皆様におかれましても、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

#### 《小中一貫教育校となり変更となる事項》

- ・ 小中一貫教育校としての通称名「御成門学園（予定）」を定めます。
- ・ 小・中学校の校長を併任で1人、副校長を小・中学校合わせて3人の体制とし、一貫した教育方針のもとで学校運営を行います。
- ・ 小・中学校教職員を兼務とし、小学校の一部授業において中学校教員による専門性を活かした授業を実施するなど、これまでの学校行事や防災訓練等の合同開催にとどまらず、子どもたちの成長過程に合わせた教育活動を両校で連携・協力して実施します。

#### ※ 以下の点は、これまでと変更ありません。

- ・ 小学校から中学校に進学する際、必ず一貫の中学校に進学しなければならない訳ではなく、私立学校等へ進学することも可能です。
- ・ 学校選択希望制により、御成門小学校以外の小学校からも御成門中学校へ進学することが可能です。

#### 《小中一貫教育校の効果と活動イメージ》

裏面をご参照ください。

(問い合わせ)

港区教育委員会事務局学校教育部 学務課 学校計画担当  
TEL 03(3578)2739

【裏面あり】

小中一貫教育校の効果

【児童・生徒における効果】

- 一貫した教育方針や教育理念の実践により、つまずきやすい学習内容を抽出し重点的に学習するなど、小学校課程から中学校課程への接続を見据えながら、一人ひとりの資質・能力を育成します。
- 小学校と中学校で連続性ある学習指導を通して、学習理解や学力の向上を図ります。
 

《活動例》

  - ・ 小学校の学習履歴を引き継ぎ、中学校教員がきめ細かな学習指導を行う。
  - ・ 小学校時に未定着な学習内容を中学校教員が小学校教員に提示し、小学校での学習指導改善につなげる。
  - ・ 小・中学校教員の教科指導における研究を活性化し、授業改善を図る。
- 9年間継続した指導を通して、教員間で児童・生徒の情報を共有し、効果的な生活指導を行います。
- 異年齢交流の機会を増やすことで、相互理解を深め、豊かな人間性や社会性、協調性を育成します。  
 (児童) 身近に模範にできる存在があることにより向上心が高まる。  
 (生徒) 児童への思いやりが育まれるとともに、児童に見られることを通して、よりよく行動しようという自覚が芽生え、自己肯定感が高まる。
 

《活動例》

  - ・ ボランティア活動など、小学校の児童会と中学校の生徒会活動の交流
  - ・ 合唱発表における小学生と中学生の相互交流
  - ・ 一部中学校部活動への小学生の参加
- 特別な配慮が必要な児童生徒について、情報や人的支援の共有化により、効果的な支援体制を構築します。
 

《活動例》

  - ・ 特別支援教育や難聴・言語通級指導学級において、小中教員、巡回指導員、学習支援員等の指導・支援を共有化
  - ・ 中1ギャップや不登校対策、いじめ問題の再発防止等での連携、共通の居場所づくり (小中教員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との共同支援)

【教職員・学校運営における効果】

- 小・中学校の教員が気軽に相談、協力できる関係を築く中で、教員の意識改革が進み、子どもの発達段階における特性や異なる校種の指導内容・方法を理解することで、教員の授業力や生活指導力が向上します。
- 意思決定の迅速性や一貫性を生かし、教員間の協力を推進するとともに、共通行事や調査事務を精選・統合するなど、業務の効率化を図ります。
- 全体としてのマンパワーの増加を生かすとともに、資源・予算の効率的な分配により、教育活動の充実を図ります。

【保護者・地域との関係における効果】

- 小・中学校の窓口を一本化し、地域コミュニティの拠点として、保護者や地域との連携を強化します。
- 学校活動の一体化と地域・保護者からの協力の集中化により、双方の負担軽減を図ります。  
 (あいさつ運動、交通安全運動、青少年対策地区委員会行事の一体化等)

- 利点を生かした学校運営により、御成門小・中学校の**教育の質の向上と子どもたちの健やかな成長**を目指します
- 特色ある教育をこれまで以上に展開し、御成門小・中学校の**魅力を向上**します

【小中一貫教育校へ移行した御成門小学校・中学校の一日(例)】 ※小・中各3学級ずつとなった際のモデルケース

	1年1組	2年2組	3年3組	4年1組	5年2組	6年3組	7年A組	8年B組	9年C組
朝の活動	6年生によるお手伝い	朝学習	朝学習	朝学習	朝学習	1年生のお世話	朝読書	朝読書	朝読書
1校時	生活	①生活 (中学校探検)	理科	④体育 (中体育教師授業)	国際	⑥家庭科 (中学校の家庭科室にて)	英語 (少人数授業)	⑨理科 (小ビオトープ観察)	数学 (少人数授業)
2校時	国語		国際	社会	算数 (少人数授業)		国語	⑩体育 (TT)	社会
中休み	○	○	○	○	○	○			
3校時	算数	国語	国語	国語	体育	算数 (少人数授業)	②美術 (作品撮影)	数学 (少人数授業)	理科
4校時	国語	算数	③道徳(中道徳推進教師授業)	算数 (少人数授業)	理科	⑦総合 (出前授業)		⑦総合 (出前授業)	英語 (少人数授業)
給食	各教室	各教室	各教室	各教室	各教室	各教室	ランチルーム		
昼休み	6年生と遊ぶ	○	○	○	○	1年生のお世話	数学 (少人数授業)	技術	国語
5校時	国際	②図工 (7年作品鑑賞)	算数 (少人数授業)	理科	社会	⑧音楽 (9年と合同)	社会	国語	⑧音楽 (小6と合同)
6校時			社会	国際		⑤総合(班別校外学習の事前学習)		英語 (少人数授業)	家庭科
放課後						⑪部活動への参加		部活動	

- ・ ①2年生【生活科】中学校探検
- ・ ③3年【道徳】担任と中学校道徳推進教師のTT
- ・ ⑤5～7年【総合】班別校外学習の事前学習
- ・ ⑦6年・8年【総合】合同出前授業[中学校体育館にて]
- ・ ⑨8年【理科】小学校ビオトープ見学
- ・ ⑩5, 6年【部活動】希望制で部活動への参加、年度ごとに1部活動を選択
- ・ ②7年【美術】作品撮影→2年【図工】中学生作品鑑賞
- ・ ④4年生【体育】担任と中体育教師のTT
- ・ ⑥6年【家庭科】中学校家庭科室の利用
- ・ ⑧6年・9年【音楽】合同授業[中学校体育館]
- ・ ⑩8年【体育】加配教員を活用したTT授業

※この日の実施は予定されていないが、学習内容によって単元の学習後の成果発表も行う。(体育館、オンライン、動画など)  
 ※諸条件の調整後に、中学校ランチルームを使用している小・中1学年ずつ合同の交流給食を検討。

【その他生活時程を通じた施設共有・学習の案】

<音楽の授業での連携>

お互いの歌声や旋律、伴奏を聴き、声を合わせて歌う学習をする小学校3・4年生と全体の響きや各声部の声を聴き他者と合わせて歌う学習をする中学1年生が双方の歌声を聴きあうことで学習を深める。

<体育の授業での連携>

小学校5・6年生と中学校1・2年生が同じトラックの反対側で陸上競技の授業を行い、小学生が中学生の走法や加速する動き、リレーのバトンの受け渡し等を見ながら学習する。

<継続性を生かした算数・数学の授業(比例・関数)>

小学校6年生、2つの数量の変わり方を表やグラフなどにして調べ、比例の意味を学習する。

中学校1年生では、比例の学習から一次関数につなげる。2つの変数x、yでxの値が決まれば、それに伴ってyの値がただ一つ決まるとき、yはxの関数であることを学習し、関数指導につなげる。

<施設の共有>

小学校の児童は、中学校の校庭・家庭科室・視聴覚室を使って学習できるようにする。

※1・3・5校時の開始時間を揃えることや、小学校5・6年生の授業時間を45分から50分に変更することなども検討し、授業の連携を図りやすくします。